

【スライドを使用する際の注意事項】

- このスライドは、公認スポーツファーマシスト認定者などのアンチ・ドーピングの知識を身に付けた薬剤師が、薬剤師を対象にアンチ・ドーピング教育啓発を行う際に活用するための資材として、公益社団法人日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会が作成したものです。
- 使用者によるスライドの加工は制限しませんが、使用者の責任において実施してください。
- 加工したスライドに「公益社団法人日本薬剤師会アンチ・ドーピング委員会」の名称を掲載することはできません（スライドの該当箇所を削除してから使用してください）。スライドを抜粋して使用するだけの場合は、この限りではありません。

**薬剤師が知っておくべき
アンチ・ドーピングの知識
～地域で貢献するために～**

公益社団法人 日本薬剤師会
アンチ・ドーピング委員会

ドーピングの現状

アンチ・ドーピング規則違反事例

最近のドーピング事例

- (1) ジャマイカリレーチーム金メダル剥奪
北京及びロンドンオリンピック時の
検体の再検査 (2017年)
- (2) 処方薬の中に微量の禁止薬が混入 (2019年)
- (3) 他の選手への禁止物質投与事例 (2018年)
- (4) サプリメントの汚染事例
国体初のドーピング陽性問題 (2016年)
- (5) サプリメントの汚染事例 (2021年)
- (6) サプリメントの汚染事例 (2019年)
- (参考) 食肉汚染と利尿薬のコンタミネーションに
ついて (2021年)

国際オリンピック委員会 (IOC) は 25 日、2008 年北京五輪の陸上男子 400 メートルリレーに出場したジャマイカのネスタ・カーター選手から禁止薬物の陽性反応が出たと発表した。ジャマイカチームは失格となり、金メダルも剥奪される。

IOC は昨年、北京五輪で採取された 454 の検体を再分析。その際に禁止されているメチルヘキサンアミンという薬物でカーター選手の陽性が確認されたという。

引用資料：CNN.co.jp 2017年1月26日

ドーピングに対して、発覚しなければよいという意見を持つかもしれないが、そのようなことは決してない。

過去のドーピング検査では検出されなくても、分析技術の進歩により再検査が行われた結果、大会当時はわからなかったドーピングが明らかになることがある。その結果、記録は遡って取り消しになり、違反者のみならずチームメイトの記録にも影響を与える。

ドーピングは決して行ってはならない。

(2) 処方薬の中に微量の禁止薬が混入 (2019年)

日本アンチ・ドーピング機構 (JADA) は4日、昨年6月のレスリング全日本選抜選手権のドーピング検査で陽性となり、暫定的に資格停止処分を科していた阪部創 (自衛隊) の処分を取り消したと発表した。
阪部選手が大会前に医師の診断の下で摂取した胃腸薬から、本来含まれていない禁止薬物のアセタゾラミドが検出されたためだという。

引用資料：朝日新聞2019年3月6日

上記の事例はドーピング検査で陽性となったアスリートが、自身の服用した医薬品の記録を取っており、自主的に分析調査を行った結果、最終的には服用した医薬品に本来含まれないはずの成分が含まれていたことが判明し、「過失なし」としてアスリートに対する処分が取り消された。

医薬品を使用するアスリートは、医師や薬剤師に自身がドーピング検査の対象になり得るアスリートであることを相談し、万が一に備えて調剤された医薬品のロット番号等の情報を控えておくことが推奨される。

(3) 他の選手への禁止物質投与事例 (2018年)

2017年のカヌー・スプリント競技の日本選手権で同年の世界選手権にも出場した男子選手がライバルとなる選手の飲み物に禁止薬物を混入させた事件が発覚した。被害選手はドーピング検査で陽性となり、潔白が証明できなければ4年の出場停止処分を受けるところだった。

引用資料：日経新聞2018年1月9日

上記の事例は、選手Aが、インターネット通販で蛋白同化ステロイド薬（メタンジエノン）を購入して競技会に持ち込み、別の選手Bのドリンクにそれを投入し、Bはそのドリンクを飲んだ後、ドーピング検査を受け、陽性となった事例である。

Bは意図的な禁止物質の使用を否定し、競技団体もBの主張を尊重し、第三者混入の方向で調査するとともに警察にも被害届を提出した。

その後、Aが競技団体に自分がBを陥れるために禁止物質を混入したことを告白し、Bへの処分は取り消されたが、Bは競技記録の消失などの不利益を被った。

このような事例は決して起こしてはならない。

アスリートは万一の場合を想定して、自身が摂取するものについては十分な管理が求められる。

(3) 他の選手への禁止物質投与事例 (2018年)

B の資格停止は無し

しかし、Bの不利益として競技会成績が失効し、また暫定的資格停止により活動できなくなったため、日本代表選考ステップに参加できなかった。

A への処分

制裁内容：資格停止 8 年間

< 決定理由 >

- 自分がメンバーに入るために他人を陥れるという極めて悪質な動機
- 長期的に計画を立てて実行した悪質な行為
- 一方で真摯に反省し、自ら告白して調査にも全面的に協力

(4) サプリメントの汚染事例 国体初のドーピング陽性問題（2016年）

平成28年10月8日に開催された第71回国民体育大会「希望郷いわて国体」自転車トラックレースに参加した際に、同日実施されたドーピング検査を受けた所、申立人の尿検体から、世界アンチ・ドーピング機構が公表する2016年禁止表国際基準に定める「S1.蛋白同化薬/1.蛋白同化男性化ステロイド薬（ASS）/a.外因性ASS」に該当する、1-Testosteroneの代謝物である 5α -androst-1-en- 3α -ol-17-oneおよび1-androstenedioneが検出された

引用資料：日本スポーツ仲裁機構による本年8月18日付け仲裁判断について

該当アスリートは継続的に同じサプリメントを摂取しており、異なる大会での検査結果は陰性であった。そのため、サプリメントの汚染があったと考えられる。仲裁の結果、サプリメントの汚染が確認されて、資格停止は4年から4か月になったが、処分が軽くなっただけでアスリートの責任が完全に免れたわけではない。

(5) サプリメントの汚染事例（2021年）

競技者は、2021年11月15日に練習中に右ハムストリングに肉離れを起こし、同月16日からチームの全体練習とは別メニューでリハビリとトレーニングを行うこととなった。この期間に筋力トレーニングの強度を高めるため、2021年12月9日または10日のいずれかまたは両日において、チームが提供するサプリメントとは別に、クレアチンを含むサプリメント（以下、本件サプリメント）を1日につき15錠服用した。

競技者が消費せず残っていた本件サプリメントにつき、2022年「2月にSports Medicine Research and Testing Laboratoryに検査を依頼したところ、1錠あたり3.7~9.8ngのオスタリンが検出されたとの結果が得られた。

引用資料：日本アンチ・ドーピング規律パネル決定 2021-001事件

上記事例は該当アスリートが、リハビリ期間中に普段チームから提供されている物とは異なるサプリメント（本件サプリメント）を摂取し、その結果、2021年12月13日の競技会外検査（尿検査）でエノボサルム

（オスタリン）が検出された。調査の結果、選手の残していた本件サプリメントから該当成分が検出され、本件サプリメントの成分表に該当成分が記載されていないこと、数カ月以内に該当アスリートが摂取したサプリメントから該当成分が検出されなかったことから汚染サプリメントと判断され、重大な過失等は無いとされたが、該当アスリートは5か月の資格停止となった。

商品の表示問題と選手の落ち度

- 競技者は摂取するサプリメント等について、日常的に注意を払っていた。本件サプリメントの成分表示にはオスタリンを含有する旨の表示はなく、本件サプリメントは国内製（国内の工場で製造）である。
- 本件サプリメントは「汚染製品」と認められる。
- チームが提供するサプリメントとは別に、本件サプリメントを摂取し、チームドクターや他の医師・薬剤師にも相談しなかった。
- ドーピング・コントロール・フォームではサプリメント名でなく「アミノ酸」、「プロテイン」としか記載しなかった。

(6) サプリメントの汚染事例 (2019年)

国内企業製造のサプリメントを原因としたドーピング違反で、4カ月の資格停止処分を科された競泳男子の藤森丈晴 (25) =ミキハウス=が14日、弁護士を通じて「安全であると説明を受けていたサプリメントへの禁止物質の混入で陽性反応が出ることなど、夢にも思っていませんでした」とコメントした。藤森丈は日本水連の医事委員会委員でもあるトレーナーの勧めでサプリメントを摂取し、筋肉増強の作用がある「オスタリン」に陽性反応を示した。

引用資料：日本経済新聞2019年11月14日

(4)、(5)、(6)の事例は共にアスリートがサプリメントを摂取した結果、サプリメントに本来含まれていないはずの成分が含まれており、ドーピング検査で陽性となった。

サプリメントは医療用医薬品と異なり治療に必須のものではないため、仮にサプリメントに本来含まれないはずの成分が含まれていた結果、ドーピング検査で陽性になったとしても、アスリートの責任は免れない。

サプリメントの禁止物質による汚染には国内外において注意が必要であり、今まで以上にサプリメントの摂取に注意するよう競技者への指導が大事である。

アンチ・ドーピング規則違反には医療用医薬品やサプリメントによる事例が多いが、JADAからは次ページ以降に示すような情報提供がされている。

仮に食肉汚染やコンタミネーションによる結果でも、アスリートには自身の潔白について十分な説明が求められる。

アスリートは医薬品やサプリメントのみならず、自身の摂取するものすべてに注意をはらい、万が一に備えて記録しておく姿勢が求められる。

食肉汚染と利尿薬のコンタミネーションの可能性に対するWADA最低分析報告濃度の設定 (2021年8月)

【背景】

- 海外にて肥育目的で使用された禁止物質による食肉の汚染や、利尿薬の混入といった複雑なコンタミネーションに関する問題への対応が世界的に求められていた。
- 上記については国内でも発生事例があり、日本からもWADAへ当該閾値の設定を求めている。
- 上記課題に対して、WADAは汚染物質作業部会を立ち上げ、最低分析報告濃度に関する議論が世界的になされてきた。

①食肉汚染

- ・アスリートの検体から検出された禁止物質クレンブテロール、ラクトパミン、ジルパテロール、ゼラノール、またはその代謝物の濃度が5 ng/mL以下の場合、WADA認定分析機関は、結果管理機関（国内検査においては、JADA）に非定型報告（Atypical Finding）を行う。そして、結果管理機関は、「結果管理に関する国際基準」の第5.2条に基づき調査を行う。
- ・調査の結果、検出された物質が食肉汚染と一致すると判断された場合にのみ、それ以上アスリートに対する措置をとらない（違反を問わない）。ただし、「世界アンチ・ドーピング規程」の第13.2.3条に記載されている不服申し立てを行う権利を持つ当事者に対し、その調査の結果を報告する。

①食肉汚染

・調査の結果、検出された物質が食肉汚染であると合理的に判断されなかった場合、「結果管理に関する国際基準」の第5.1条に従って、違反が疑われる分析報告（Adverse Analytical Findings）として取り扱う。

アスリートに求められる行動

- 大会組織委員会等から指定された場所での食事、および一緒に食事した人や食事場所の記録の保管
- 海外で食べた物の記録、レストランやマーケットの領収書の保管
- アンチ・ドーピング調査への協力

②利尿薬の混入（コンタミネーション）

・アセタゾラミド、ブメタニド、フロセミド、ヒドロクロロチアジド、トラセミド、トリウムテレン又はその代謝物の1種又は2種以上がアスリートの検体において推定濃度20 ng/mL以下であれば、WADA分析機関は結果管理機関（国内検査においては、JADA）に違反が疑われる分析報告（Adverse Analytical Findings）または非定型報告（Atypical Finding）報告を行わない。

・ただし、体重別がある競技（具体は以下WADA公開の「Stakeholder Notice regarding potential diuretic contamination cases」のA.2を参照）においては、上記利尿薬と代謝物が20 ng/mL以下であっても、WADA分析機関は結果管理機関（国内検査においては、JADA）に非定型報告（Atypical Finding）として報告し、結果管理機関は必ず調査を行う。

②利尿薬の混入（コンタミネーション）

- ・調査の結果、利尿薬の不慮の混入（コンタミネーション）であると合理的に判断された場合にのみ、それ以上アスリートに対する措置をとらない（違反を問わない）。ただし、「世界アンチ・ドーピング規程」の第13.2.3条に記載されている不服申し立てを行う権利を持つ当事者に対し、その調査の結果を報告する。
- ・調査の結果、利尿薬の不慮の混入（コンタミネーション）であると合理的に判断されなかった場合、「結果管理に関する国際基準」の第5.1条に従って、違反が疑われる分析報告（Adverse Analytical Findings）として取り扱う。

アスリートに求められる行動

- 医薬品、サプリメントのロット番号や使用した記録
- ドーピング検査公式記録書（ドーピング・コントロール・フォーム）への「7日以内に使用した医薬品・サプリメント」欄への正確な記載

参考 JADAHP : <https://www.playtruejapan.org/topics/2021/000525.html>

ドーピングの現状

アンチ・ドーピング規則違反事例

～日本のドーピング事例～

2007年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2007年 9月14日	ボディビル	・ Bumetanide	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2007年9月14日～)
2007年 10月20日	チェス	・ Hydrochlorothiazide	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2007年10月20日～)
2007年 11月1日	セーリング	・ Finasteride	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2007年11月1日～)
2007年 12月10日	綱引競技	・ Methylephedrine	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2007年12月10日～)

2008年 (1)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2008年 3月11日	障害者水泳	・ Dorzolamide	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：なし
2008年 3月18日	ウェイト リフティング	・ 1-methylene-3 α - hydroxy-5 α -androstan- 17-one	・ 資格停止：2年 (2008年3月18日～)
2008年 3月31日	障害者アルペ ンスキー	・ Brinzolamide	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：なし
2008年 7月30日	陸上競技	* prednisolone * prednisone * 20 β - dihydroprednisolone	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2008 年7月14日～)
2008年 9月9日	ボディビル	* 2 α -methyl-5 α - androstan-3 α -ol-17-one (ドロスタノロンの尿中 代謝物)	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2008年9 月9日～)
2008年 9月14日	相撲	* carboxyfinasteride	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2008 年9月14日～)

2008年 (2)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2008年 10月29日	自転車競技	* Salbutamol	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：1 年（2008年10月29日～）
2008年 10月29日	ボディビル	* Carboxyfinasteride * Testosteroneもしくはその前駆物質	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2 年（2008年10月29日～）
2008年 11月21日	フロアボール	* Methylephedrine	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3 ヶ月（2008年11月21日～）
2008年 11月21日	ボールルームダンス	* Methylephedrine	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3 ヶ月（2008年11月21日～）
2008年 12月2日	ボディビル	* Boldione * β-androst-1-en-17β-ol-3-one	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2 年（2008年11月22日～）

2009年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2009年 1月31日	フェンシング	* Methylephedrine	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3 ヶ月（2009年1月31日～）
2009年 2月11日	ラグビー	* Cannabinoids	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3 ヶ月（2009年2月2日～）
2009年 8月1日	相撲	メタンジエノン [methandienone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 （2009年7月22日～）
2009年 8月4日	障害者水泳	絨毛制ゴナドトロピン [human Chorionic Gonadotrophin (hCG)]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 （2009年7月31日～）
2009年 11月14日	ソフトボール	プレドニゾロン，及びプ レドニゾン [Prednisolone, and Prednisone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3 ヶ月 （2009年10月27日～）

2010年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2010年 8月14日	障害者水泳	ヒドロクロロチアシド [hydrochlorothiazide]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2010年8月6日～)
2010年 10月12日	パワー リフティング	4-メチル-2ヘキササンアミン [4-methyl-2-hexaneamine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年間 (2010年9月29日～)
2010年 11月3日	パワー リフティング	メテノロン [Metenolone] 19-ノルアンドロステロン [19-norandrosterone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年間 (2010年10月28日～)
2010年 11月19日	ソフトボール	ヒドロクロロチアシド [hydrochlorothiazide]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2010年10月29日～)

2011年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2011年 2月3日	バスケット ボール	イソメテプテン [isometheptene]	・ 競技成績の失効 ・ 譴責処分
2011年 6月10日	レスリング	ドロスタノロン [drostanolone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2011年5月17日～)
2011年 7月6日	自転車競技	メチルヘキサンアミン [methylhexaneamine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：6ヶ月 (2011年6月28日～)
2011年 7月17日	ウェイト リフティング	ベタメタゾン [betamethasone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2ヶ月 (2011年7月8日～)
2011年 10月15日	ボディビル	メチルヘキサンアミン [methylhexaneamine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2011年10月4日～)
2011年 11月14日	陸上競技	テルブタリン [terbutaline]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2ヶ月 (2011年11月4日～)

2012年 (1)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2012年 2月6日	レスリング	タモキシフェン [tamoxifen]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2012年1月12日～)
2012年 4月15日	ハンドボール	クロミフェン [clomiphene]	・ 資格停止：3ヶ月 (2012年4月6日～)
2012年 8月1日	ハンドボール	メチルエフェドリン [methylephedrine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2012年7月25日～)
2012年 9月28日	ボディビル	フロセミド [furosemide]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2012年9月18日～)
2012年 10月4日	ボディビル	19-ノルアンドロステロン [19-norandrosterone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2012年9月27日～)

2012年 (2)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2012年 12月19日	体操競技	メチルエフェドリン [methylephedrine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2012年12月10日～)
2012年 12月27日	ウェイト リフティング	19-ノルアンドロステロン [19-norandrosterone] 19-ノルエチオコラノロン [19-noretiocholanolone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：5年 (2012年12月14日～)

2013年 (1)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2013年 5月14日	陸上競技	エリスロポエチン [erythropoietin]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年1月18日～)
2013年 5月14日	テコンドー 競技	日本ドーピング防止規程 2.3項の違反	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年4月7日～)
2013年 9月1日	ボディビル	クレンブテロール [clenbuterol] メチルヘキササンアミン [methylhexaneamine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年8月16日～)
2013年 9月19日	ボディビル	クレンブテロール [clenbuterol]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年8月30日～)
2013年 10月8日	フィギュア スケート	フロセミド [furosemide]	・ 資格停止：3ヶ月 (2013年9月12日～)
2013年 10月23日	ボディビル	2 α -methyl-5 α - androstan-3 α -ol-17-one (ドロスタノロンの尿中 代謝物)	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年9月25日～)

2013年 (2)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2013年 11月8日	ボディビル	クレンブテロール [clenbuterol]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2013年10月31日～)

2014年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2014年 5月7日	障害者スキー ／ノルディック・クロスカントリー	メチルエフェドリン [methylephedrine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3ヶ月 (2014年4月7日～)
2014年 7月23日	バレーボール	カンレノン [canrenone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3か月 (2014年6月16日～)
2014年 7月5日	パワー リフティング	メチルエフェドリン [methylephedrine]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3か月 (2014年6月18日～)
2014年 12月4日	ボディビル	メチルテストステロン [methyltestosterone]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2年 (2014年11月12日～)

2015年 (1)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2015年 1月30日	ラグビー フットボール	ツロブテロール [tulobuterol]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3か月 (2014年12月17日～)
2015年 2月18日	バレーボール	ツロブテロール [tulobuterol]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：2か月 (2015年1月7日～)
2015年 4月21日	自転車競技	ツロブテロール [tulobuterol]	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止：3か月 (2015年3月25日～)
2015年 10月27日	ボディビル	デヒドロクロロメチルテ ストステロン	・ 資格停止 8年間 (2015年8月21日～)
2015年 11月12日	パワー リフティング	ドロスタノロン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 4年間 (2015年7月30日～)
2015年 11月17日	陸上競技	メチルエフェドリン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 6ヶ月間 (2015年10月6日～)

2015年 (2)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2015年 12月8日	ソフトボール	・ オキシロフリン ・ β -メチルフェネチルア ミン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 8ヶ月間 (2015年7月7日～)
2015年 12月8日	ボディビル	オキシロフリン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 2年間 (2015年11月2日～)

2016年 (1)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2016年 1月7日	パワー リフティング	メタンジエノン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 4年間 (2015年11月2日～)
2016年 3月4日	ボディビル	日本アンチ・ドーピング 規程2.4項違反	・ 資格停止 4年間 (2015年12月4日～)
2016年 3月16日	ボディビル	オキシロフリン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 2年間 (2015年11月5日～)
2016年 11月7日	ボディビル	・ 1-テストステロン ・ 1-アンドロステンジオ ン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4年間 (2016年10月14日～)
2016年 12月19日	ボディビル	メタンジエノン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4年間 (2016年10月14日～)
2016年 12月22日	サッカー	メチルヘキサンアミン	・ 競技成績の失効 ・ 譴責のみ

2016年 (2)

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2016年 12月26日	自転車	・ 1-テストステロン ・ 1-アンドロステンジオン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4ヶ月間 (2016年10月28日～)

2017年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2017年 12月11日	レスリング	・ クレンブテロール ・ メチルエフェドリン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 1年8ヶ月間 (2017年10月22日～)
2017年 12月13日	カヌー	・ メタンジエノン	・ 競技成績の失効
2017年 12月25日	カヌー	・ 禁止物質の投与	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 8年間 (2017年12月13日～)

2018年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2018年 1月17日	水泳	・ 1,3-ジメチルブチルアミン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止7ヶ月間 (2017年9月21日～)
2018年 3月1日	フェンシング	・ プレドニゾロン ・ プレドニゾン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 1年3ヶ月間 (2017年12月16日～)
2018年 6月26日	陸上	・ メテノロン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止 1年3ヶ月間 (2017年11月26日～)
2018年 7月31日	自転車	・ メタンジエノン ・ クロミフェン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4年間 (2018年7月11日～)
2018年 11月2日	ボディビル	・ クロミフェン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止2年間 (2018年10月10日～)
2018年 11月19日	自転車	・ ビランテロール	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止6ヶ月 (2018年8月19日～)

2019年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2019年 2月12日	陸上競技	・ クロミフェン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止2年間 (2018年10月11日～)
2019年 2月22日	レスリング	・ アセタゾラミド	・ 競技成績の失効
2019年 5月7日	パワー リフティング	・ メテノロン ・ ボルデノン ・ クロミフェン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4年間 (2019年4月8日～)
2019年 10月31日	水泳	エノボサルム (オスタリン)	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4ヶ月 (2019年7月26日～)
2019年 11月19日	ハンドボール	・ ツロブテロール	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3ヶ月 (2019年5月20日～)

2020年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2020年 2月17日	ボート	・ ツロブテロール	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止2年間 (2019年10月5日～)
2020年 6月17日	空手	・ ツロブテロール	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止10カ月間 (2019年10月17日～)

2021年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2021年 7月14日	ボクシング	・フロセミド	・競技成績の失効 ・資格停止2年間 (2021年3月25日～)

2022年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2022年 12月7日	陸上競技	・ 19-ノルアンドロステロン ・ 19-ノルエチオコラノロン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3年間 (2022年6月2日～)
2022年 12月20日	ボディ ビルディング	・ トレンボロン代謝物	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3年間 (2022年9月15日～)
2022年 12月21日	陸上競技	・ 19-ノルアンドロステロン ・ 19-ノルエチオコラノロン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止4年間 (2021年2月8日～)

2023年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2023年 8月27日	自転車	・ ツロブテロール	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止14ヶ月 (2024年4月26日～)
2023年 10月5日	陸上競技	・ プレドニゾロン ・ プレドニゾン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3ヶ月 (2023年5月30日～)
2023年 11月30日	陸上競技	・ トリメタジジン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3年間 (2023年10月17日～)
2023年 12月11日	ボディ ビルディング	・ テストステロン ・ トレンボロン ・ インスリン様成長因子	・ 資格停止3年間 (2023年10月24日～)
2023年 12月19日	自転車	・ メルドニウム	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3年間 (2023年10月13日～)

2024年

決定期日	競技種目	検出物質もしくは違反内容	制裁内容
2024年 1月15日	陸上競技	・ ナンドロロン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止3年間 (2023年10月12日～)
2024年 12月24日	自転車	・ メチルエフェドリン	・ 競技成績の失効 ・ 資格停止2年間 (2023年12月21日～)